

職員各位

特定非営利活動法人にじのこ
デイサービスにじのこ給田

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表アンケート結果のお知らせ

日頃より、当法人の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、先日ご協力頂きましたアンケートの集計結果をご報告致します。改善点も含め、支援の質の向上と支援内容の適正化を図るための努力をしておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも えない	いいえ	課題や、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	18	4		・ただし、雨天時等、庭に出られない時で人数が多い場合は厳しく感じる。・スペースが比較的ある。・常に利用者の導線を配慮している。・中高生の多い日に関しては狭く感じることもあるが、気候のよい時は庭に誘う等、分散させて対応している。
	②	職員の配置数は適切であるか	21	1		・十分に配置されていると認識している。・マンツーマン対応が必要な児童が多い時に人手が欲しい場合もある。受け入れの要望があっても人員の関係で断ることが多く、後ろめたい思いがある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	18	2		・トイレはバリアフリー化されている。車椅子で庭に出ることは難しいため、完全なバリアフリーではない。・改修工事に伴い、トイレのバリアフリー化・段差の除去は行われてはいる。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	18	3		・業務前の打ち合わせ、支援後の振り返りに職員全員が参加し、意見を出し合っている。・研修やケア会議等があり、就業意欲が上がる。日々の振り返りもとても勉強になる。・非常勤にも意識が向くよう働きかけをしている。・一年周期のサイクルは幹部職員だけで回している。一日周期のサイクルは広く職員が参画しているが、毎日の目標設定までには加わっていない。・日々の活動の振り返りや職員との対話の中で出た視点を踏ま

					えながら、常勤職員が目標を設定し、振り返りを行っている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	14	1	・利用希望に関しては、定員厳守や法人全体の職員配置、経営面を踏まえながら、必ずしも応えきれていない実情も正直ある。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15	1	・ホームページにて公開している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	14	1	・第三者評価は書類審査と幹部へのヒアリングで行われている。現場を見ないで正しい評価ができるのか？（⇒これについては、現地見学と資料等の閲覧、又職員と非常勤職員アンケートと保護者アンケートを行った上で評価を頂いています。）・2018年度に第三者評価を受けて、課題とされたマニュアルの整備等に関しては、至らない部分はあるが少しずつ進めている。・昨年度の第三者評価で出た改善課題を年間目標に組み入れ、研修やマニュアル作成に繋げている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	21		・組織内研修はもちろんのこと、外部研修の紹介も随時受けている。・参加しやすい時間帯に行われていると思う。・法人として障害特性や虐待防止等の研修があるだけでなく、事業所の中でもケア会議という形で行っている。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	16	1	・責任者や担当職員が作成していると認識している。・常勤職員は行っていると思います。・限られた中で、普段の様子を観察と保護者との面談を踏まえながら、必要な課題をとらえている。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9	5	2	・Vineland TM-11 適応行動尺度等は使用していない。・WISC等の心理検査は行っていない。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	10	5	2	・個人で立案している場合が多い。・常勤職員が行っていると思います。・把握していないのでわかりません。・プログラムリーダーが日々工夫している。・チームでの立案ではないが、振り返りや職員との対話で生まれた意見を反映させている。・プログラムの内容についてはプログラムリーダーが個々に立案しているが、内容が偏らないようチーム全体で組み立てている。

⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	18	4	<p>・パターン化している場合もある。・中には固定化したほうがよい活動もある。・非常勤職員がリーダーとなってプログラムを定期的に行っている。・アートや音楽、クッキング、運動等、バラエティに富んでいる。・季節の内容を取り入れたり、その時々の利用者の興味・関心を反映させたりしながら行っている。</p>
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	16	3	<p>・長期休暇には特にきめ細やかな設定をお行っていると思う。・把握していないのでわかりません。・長期休暇（特に夏）には職員による全体会を行ったほうがよい。過去はしていたと思う。・課題を決めているが、きめ細やかにひとりひとりに設定するまでには至っていない。・普段利用時間の短い場合、長期休暇中には買い物での金銭管理等、普段できないことを行っている。・平日は学校から移動して来る利用者がリラックスできる環境をつくり、休日や長期休みは、リズムが崩れないよう配慮しながらメリハリのある活動内容を設定している。</p>
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	17	1	<p>・常勤職員は行っていると思います。・把握していないのでわかりません。・個別活動になるかはわからないが、自分で服を畳むこと等の身辺自立の課題と、他児との関わり等の集団活動の視点を双方取り入れている。・多様な活動の中に個別の目標を組み入れて作成し、支援を行っている。</p>
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	22		<p>・ひとりひとりの直近の様子を伝えていただけるので、支援を考えたり変えたりすることができる。・利用者の近況含めた情報共有等細かく行われている。・（ヘルパー等で）時間差で出勤する職員に必ず実施している。・十分な時間を取り、疑問点が残らないようにしている。・必ずやっている。・開始前には毎回打ち合わせを行って確認している。</p>
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	22		<p>・その日の迷いや疑問点等を、振り返りすることで次へとつなげることができる。・記録を書く前に必ず振り返りを行い、共有している。・必ずやっている。・終了後には振り返りを行い、意見を吸い出しながら共有を図り、利用者の理解に努めている。意見を出すことに対して消極的な職員にも言いやすい雰</p>

					困気づくりを心掛けている。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	18	2	・支援計画に基づく視線で支援して欲しいという話が出る。・記録についての研修も行っている。・自分への課題であり、正しく伝わるようにしたい。・記録の書き方については、ケア会議を行う等し、振り返りで出た重要な視点は日誌にも書いている。	
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	16	1	・責任者・担当者が行っていると認識している。・ケア会議に参加し、とても有意義だった。・6か月に1回は保護者と面談を行い、個別支援計画を見直している。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	8	4	・常勤職員は行っていると思います。・組み合わせまででは行えていない。・日常の活動の中で結果的に取り入れている面もあるが、適宜参考にしてはいる。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	3	・常勤職員は行っていると思います。・そのように認識している。・サービス担当者会議が開催される場合には、施設長が参加することが多い。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	10	4	・学校に直接確認することはしていないが、保護者経由で行事予定表を受け取っている。・常勤がしていると思う。・特別支援学校とは連携が取れ、随時連絡・相談できる関係ができてはいるが、支援級との連携に関しては担任と話をする機会がなかなか持たず、今後の課題となっている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6	4	2	・常勤がしていると思う。・医療的ケアが必要な子どもを受け入れていない。・現在は医療的ケア利用児を受け入れていないが、肢体不自由児の支援に関しては、保護者経由で対応を確認している。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	9	4	・常勤がしていると思う。・責任者・担当が行っている。・同法人内では共有できている。・幼児グループの利用者に関しては、同意を得た上で個別支援計画等を事業所間で共有している。・幼児グループにじのことは情報共有・相互理解ができてはいるが、それ以外に関しては保護者からの情報のみである。	

	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5	4	2	・常勤がしていると思う。・こちらから提供していない。要望があれば提供できる。・特に求めがあったことはないので直接提供したことはないが、保護者の依頼に基づいて個別支援計画の写しを提供したことはある。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	3		・常勤がしていると思う。・定期的に巡回訪問支援を受けている。・度々、専門機関の職員が支援の様子を見て、助言をいただいている。内容は支援に入る職員に知らされ、支援に活かしている。・区のセンターの巡回訪問を受け入れ、支援に活かしてきた。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	7	4	・常勤がしていると思う。・なかなか交流までには至らない。・保護者からの要望もあまりないため、積極的に行っていないが、地域交流イベント等で一緒に参加できる場は一応設けている。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	9	1		・常勤がしていると思う。・担当者が参加している。・お祭りやイベントが行われている。・地域自立支援協議会に定期的に職員が参加している。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	17	1		・直接話す、ノートを通して等、常に子どもの状況の把握に努めている。・活動中の様子や変化等、お迎えの時に保護者から聞き取り、様子の確認。保護者へのフォローも迅速、帰りのミーティングですぐ報告。・日々の聞き取りや面談での聞き取りで共通理解していると思う。・来所時や面談時、電話等で必要時にコミュニケーションをとりながら、共通理解に努めている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	4	5	2	・対応を検討して共有、事例に対しチームとしての対応、トップの指示としてすぐ降りてくるので、職員として安心して仕事ができる。・職員間で行っているが、保護者には行えていない。・保護者に対して直接ペアレント・トレーニングは行ったことはないが、ペアレント・トレーニングの考え方を職員研修の中で取り入れたことはある。
保護者	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9	3		・常勤がしていると思う。・責任者が行っていると認識している。・聞かれたら丁寧に対応している。・利用開始時や面談時に随時

への説明責任等					説明を行っている。	
	⑳	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	19	1	・責任者・担当者が定期的に面談を行い、また随時相談に応じている。・共感しているが、助言までには至っていない。・気になることがある場合は、来・降所時や面談時、電話等で適宜話を聞くようにしている。	
	㉑	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	9	4	1	・会の存在があるのか知らない。・イベントの手伝い等での交流の場を持っていることはあるが、父母会までは行っていない。・イベント等、職員と保護者、また保護者同士がひとつになっていると感じる。・以前他事業所に通っていた保護者から、保護者会が負担だったという声があり、積極的には設けていないが、バザーの手作り品制作やコンサートのポンポンづくり等でゆるやかに交流する場を設けている。
	㉒	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	17	2		・状況を知りたい保護者には近くにいた職員を交えて回答している。・直接話す、ノートに書いて伝える等、なるべく早く利用者に誠実に対応していると思う。・苦情を受けていない。・苦情対応に関しては窓口を一本化している。苦情（と思われること）があった場合には、その利用者・保護者と連携していくチャンスととらえ、丁寧に対応している。・苦情相談窓口を設け、対応の体制を整えている。
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	22			・月1回発信している（おたより）。・毎日の便りの他、会報等、情報や内容がとても充実している。・毎月じのこだよりを発信している。
	㉔	個人情報に十分注意しているか	21	1		・情報の交換のために配慮できていない。（⇒これに対しては、契約時に保護者から支援に必要な情報提供等の同意書を頂いている。また、職員にも守秘義務については契約時に同意書を求め、就労規則にも盛り込んでその都度周知徹底している。）
	㉕	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	19	1		・マカトンサイン、絵カードの活用、わかりやすい言葉で伝える等、配慮している。・絵・写真カードやサイン表を活用している。主に利用者向けではあるが、じのこ新聞を作

					成し、普段の様子が視覚的にわかるようにしている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	14	4	1	・バザー等のイベント。・バザーやコンサート等の催し物を行っている。・法人のイベントには地域の方へ呼び掛けを行っている。・にじのこバザーや成人余暇イベント、40周年記念ありがとうコンサート等、法人全体で企画している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	20	2		・全員に嘔吐研修・171研修を定期的実施している。・保護者にはどうかわからない。・それぞれアップデートを行いながら、マニュアルを策定している。・防犯マニュアルの周知にはあいまいな部分があり、保護者に伝わっているか不明。・マニュアルに関しては一部整備中のものもあるが、年度当初には防災マニュアル等を保護者に渡している。マニュアルに関しては、職員がいつでも見られるように閲覧用ファイルに入れている。・防犯マニュアルに反しては策定していない。一年に一回不審者対応の避難訓練を実施している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	22			・訓練を毎月行っている。・月1回、様々な災害・犯罪を想定して訓練を行っている。救命救急講習も受講している。・月に1回程度、避難訓練を実施。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	22			・きめ細やかな参加型の研修をしている。・研修やチェックシートの記入を行っている。・やむを得ず研修に参加できなかった際にも資料が渡り、課題もありよかった。・法人全体としても毎年研修を行っており、記録の書き方等を伝えた際にも虐待防止につながるような視点を提供している。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	16			・該当者がいない。・車椅子利用者に関しては、ベルトの使用について個別支援計画に含め、同意を得ている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	12	4		・保護者からの申告に基づく対応だと認識している。・年度当初や面談時に保護者との間で確認している。指示書なのかはわからないが、医師からの指示を保護者が受けていると思われる。・保護者からの聞き取り

					に基づいてアレルギー表を作成して掲示している。
⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	22			・常に全員が読むよう声を掛けている。支援前にはヒヤリハット事例の確認を必ず行う。数ヶ月ごとに集計した事例集も共有している。・勤務時に確認しながら支援に当たる。・ヒヤリハットは随時周知し、3か月に1回はまとめをつかって確認をしている（他事業所で起こったものも伝える場合がある）。

*職員 22 名中 22 名提出（項目により無回答あり）

事業所向け自己評価表の集計結果

以上の結果を踏まえて、職員内で今後の支援の改善が必要だと思われる項目について話し合いました。

チェック項目	対応できている（工夫している）点	改善点、その他
⑫ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	保護者と職員のズレというよりもいろいろな考え方があるとい印象であり、保護者・職員共に意見が分かれている。保護者アンケートでは具体的な記述はなかったが、保護者会が負担だという意見も以前見られたので、保護者同士の連携についてはバザー等の機会に交流の場を設けている。	にじのこは幼児から成人の利用者がいるので縦の交流がもっと活性化されるとよいと考えている。
⑬ 活動内容が固定化しないよう工夫しているか	保護者は全員「はい」だったが、職員の中ではパターン化している、バラエティに富んでいる等、意見がいろいろだった。非常勤職員がプログラムリーダーとして音楽あそびやパネルシアター等で得意な分野を発揮し、豊富な内容を提供している。今年度はさらにプログラムリーダーが1名増え、「筆あそび」で大胆に文字や線描きを楽しむことができた。また、常勤職員が粘土あそびを新たに設定し、感触あそびと指先の巧緻運動等を取り入れながら、利用者の創造性を引き出すことができた。	今後もよりいっそう、専門性を取り入れた内容を盛り込みつつ、頑張らせすぎずに楽しめるプログラムを考えていきたいと考えている。
⑭ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	特別支援学校とは、相談支援事業や保護者と随時連絡・相談しながら連携することができており、担当者会議等も行うことができた。	特別支援学級との連携に関しては、担任と話をする機会がなかなか持てず、今後の課題となっている。
⑮ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	ガイドラインをファイルに入れて随時閲覧できるように置いている。支援の提供に際しては、子どもの自己選択や自己決定を促し、それを支援するプログラムを組み込みながら、豊かな感性を培うための創作活動やゆったりした雰囲気の中で、リラックスしながら社会経験ができるよう工夫している。	職員、非常勤ともにガイドラインの内容を周知し、話し合いながらさらに自立に向けた環境づくりと自己肯定感を育むことができる支援を組み立てていく。

これらの結果を踏まえて、今後改善すべきである支援の目標を、「個別の課題を打ち合わせや振り返りの時間に職員全体で把握し合い、活動プログラムの中に具体的な支援を組み入れて設定していく」としました。

前回のアンケートにおける改善点の結果

2019年度の課題	改善点、その他	2019年度の結果
利用者がヘルパーとの関係を育みながら社会的な体験を積むことができる送迎の部分をより大事にしていく。	仕事をする保護者が増えている中で、長期休暇の利用について、引き続き介護事業との連携を図りながら、個別のニーズに応じられるように検討していく。	長期休暇の利用時は介護事業との連携を図りながら、個別のニーズに応じられるよう保護者の帰宅時間に合わせて対応することができた。